

# 大学の世界展開力強化事業(2020年度選定) 北海道大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2020年度・タイプA②))

アフリカと日本の架け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム

～ザンビア-北大の頭脳循環成果を基盤として～

【交流推進事業の概要】



【交流プログラムの概要】

保全医学(conservation medicine)の概念は2000年に入り急激に世界に広まった新しい学問分野である。人間の活動に伴う環境の変化とそれに付随する感染症や汚染物質による健康問題を、人間のみならず、動物や生態系、広くは地球全体の健康問題として捉えるOne Healthの概念の下、ザンビア大学との連携により、国際的な保全医学の教育を実施する。事前事後の研修を含む3週間の派遣受入を実施し、最先端の保全医学について学ぶ環境を提供するとともに、現地の文化や日本文化の理解の醸成にも努め、将来長きに渡り日本とザンビア、ひいては日本とアフリカの友好的な国際連携関係の構築に寄与する人材を育成する。さらに、他分野にわたる学生参加と実効性のある質の高い教育評価を行うために日本・ザンビアの保全医学関係者からなるステークホルダーボードを設立し、その支援の下で、コンピテンシー評価を行う。

【本事業で養成する人材像】

- アフリカと日本の連携推進が、グローバルな感染症問題、環境問題、食料生産問題の解決に貢献する、という意識のもと、将来アフリカとの連携に意欲的に取り組む思考態度を有する人材
- 専門分野における優れた知識と技術はもちろん、国際感覚に優れ、また異分野の人間との協働を積極的に行うことができ、国際的な課題を俯瞰しOne Healthに貢献できる人材

【本事業の特徴】

多分野の学生が参加できるようカリキュラムを構築し、日本からは本学の全分野に学生及び教員の派遣枠を設定する。事前事後の研修はオンラインで実施し、現地の実地体験・修学と合わせたハイブリッドの教育プログラムを実施する。また、多分野にわたる学生参加と実効性のある質の高い教育評価を行うために、コンピテンシー評価を行う。

【交流予定人数】

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生	4	8	8	8	8
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	4	10	10	10	10
受入	実際に渡航する学生	4	4	4	4	4
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	8	10	10	10	10

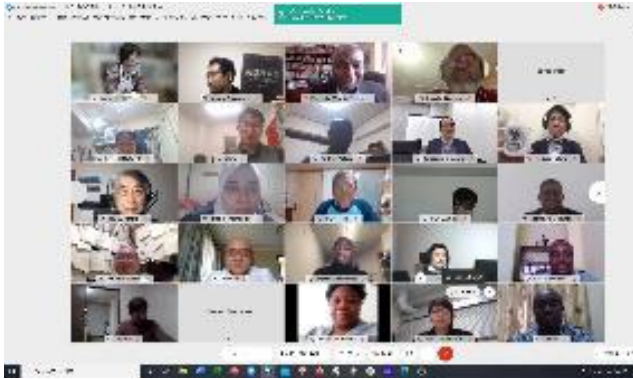
# 1. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【北海道大学】

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

アフリカと日本の架け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム  
～ザンビア-北大の頭脳循環成果を基盤として～

## ■ 交流プログラムの実施状況



- 令和2年度は実際の派遣及び受入はせず、シンポジウム型の授業(演習)として、オンラインにより「Bilateral Symposium between University of Zambia and Hokkaido University: One Health Joint Research」を実施した。
- 各大学より学生を中心に、保全医学のキーワードとなる「One Health」に係るザンビアにおける研究内容を発表した。
- 令和2年度はE-ラーニングについて保全医学に係る11のコンテンツを作成した。E-ラーニングコンテンツについては令和3年度も継続して作成していく。
- 令和3年度以降のシラバスについて順次公開している。

〈 左写真はオンラインシンポジウムの様子 〉

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

- 実際の渡航を伴う学生の派遣は行わず、試行的にオンラインより授業に参加した。
- 大学院生は多分野の専門領域から計15名が参加した。

### ○ 外国人留学生の受入

- 実際の渡航を伴う学生の受入は行わず、試行的にオンラインより授業に参加した。
- 大学院生は多分野の専門領域から計13名が参加した。

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	4	15
学生の受入	8	13

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 2020年度は、運営委員会をはじめとして各種委員会の整備をした。2020年度は本事業内に教務委員会を作り、内部質保証のために、教育に関して欧州獣医学教育国際認証などでそのスキームを熟知している教員を配置し、QA(Quality Assurance)担当ユニットを設置した。
- 本事業では、学生の評価にコンピテンシー評価を取り入れる。その為の情報収集や共有を行い、評価方法の検討を行っている。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 授業について分野横断的に多様な学生が参加できるよう、全学向けの大学院共通授業科目として、9科目のシラバスを大学院共通授業科目としてWEBサイトに掲載した。このうち、6科目については履修ガイドブックを作成した。
- また、2021年3月に海外派遣・国際交流に関するリスク管理セミナーをFDとして開催した。
- 派遣に向けてSOPの作成を行った。



〈 海外リスク管理セミナーFDの様子 〉

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 大学の世界展開力強化事業のために北海道大学のホスティングサーバーに日英表記のWEBサイトを構築した。  
<https://africa.vetmed.hokudai.ac.jp/>
- さらに、日英表記のパンフレット500部の作成した。
- 北海道大学アフリカ研究会とも連携し、研究会WEBサイトとも連携して広報を行っている。
- シラバスについても公開し、順次、情報を提供できる体制を整えた。

## ■ グッドプラクティス等

- シンポジウム型演習授業では、北海道大学、ザンビア大学の両大学から、多様な分野の学生が参加し、また両国から行政や国際機関、民間企業を含む多様なステークホルダーが参画した。

## 2. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

アフリカと日本の架け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム  
～ザンビア-北大の頭脳循環成果を基盤として～

### ■ 交流プログラムの実施状況



- COVID19の影響により物理的な派遣受入は実施していないが、オンラインによる講義や演習を行った。
- Eラーニングコンテンツを充実させた。
- シラバスを公開し、参加学生の公募を行った。ザンビア大学からは派遣4名、オンライン10名募集のところ、54名の応募があった。

〈左: オンラインによるポスターセッション〉

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

- COVID19感染拡大のため、実際の海外渡航を伴う学生の派遣は行わず、オンラインより授業を実施した。
- オンラインでOne Healthや保全医学に関する講義を実施した。
- ザンビア大学教員によるセミナーやデモ授業を実施した。
- 国内において実習を代替した。
- 道内の豊羽鉱山に学生を派遣し、鉱山と環境保全に関する演習を行った。

#### ○ 外国人留学生の受入

- COVID19感染拡大のため、来日せずに、オンラインにて授業を実施した。
- One Healthに関する基礎講義(1単位相当)、ケミカルハザードに関するコース(5単位相当)、ザンビアの鉱山資源と環境保全に関する授業(1単位分相当)、人獣共通感染症に関する授業(1単位相当)、保全医学に関する演習(1単位相当)について、選択制として授業を実施した。授業終了後、ケミカルハザード対策専門家認定試験の受験希望者には、試験をオンラインで実施し、証明証の発行を行った。

	R3(R4年度に一部繰り越し)	
	計画	実績
学生の派遣	8(単位あり)	オンライン12(単位あり)
	オンライン10(単位無し)	オンライン6(単位無し)
学生の受入	4(単位あり)	オンライン7(単位あり)
	オンライン10(単位無し)	オンライン2(単位無し)

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ✓ 分野横断的に多様な学生が授業を履修できるよう、全学向けの大学院共通授業科目としてシラバスを作成し、WEBサイトに公開した。このうち、6科目については履修ガイドブックを作成した。
- ✓ 2022年10月に海外派遣・国際交流に関するリスク管理セミナーをFDとして開催した。
- ✓ 成績評価方法としてルーブリックを作成し、習得能力で評価するコンピテンシー評価を試行的に実施した。
- ✓ 外部評価委員会による外部評価を実施した。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ✓ 学生を派遣・受入する際の研修環境の整備を行うためにサイトビジットを行った。
- ✓ ザンビア大学を訪問し、ザンビアにおける学生のアクティビティについての環境を整えた。
- ✓ 国内ではザンビア大学学生の研修先を予定している道内施設との調整を行った。
- ✓ ザンビア大学より教員を招聘し、日本人学生に対する授業を実施した。



〈上: 鉱山サイトビジットによる演習〉

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ✓ 大学の世界展開力強化事業のために日英表記のWEBサイトを公開した。シラバスなどはWEBサイトを通して学生に周知した。 <https://africa.vetmed.hokudai.ac.jp/>
- ✓ ザンビア大学学生のためには既存のラーニングマネジメントシステム(LMS)を導入し、授業関係資料について公開した。日本人学生用に本学LMSを利用し、授業への利用のほか、学生の募集などを行った。

### ■ グッドプラクティス等

- ✓ 多様な分野の教員(獣医、地球環境、農学、人獣共通感染症、工学、保健)が運営委員となり、カリキュラムの構成を行った。
- ✓ 成績評価方法として、能力習得による評価を重視し、ルーブリック作成の上、コンピテンシー評価を実施した。